

5. グローバル COE プログラムにおける活動

＜一橋大学グローバル COE プログラム「社会科学の高度統計・実証分析拠点構築」活動報告＞

本プログラムは、経済研究所の深尾京司教授を拠点リーダーとして、2008 年度から 2012 年度までの 5 年間にわたって実施された。本プログラムは、世界の研究者に開かれたデータ・アーカイブを核とし、アーカイブを活用した実証研究とデータに直結した統計分析手法・経済理論の開発や人材育成を行い、世界的な教育研究拠点を構築することを目標としていた。本プログラムは事業推進担当者 28 名(2013 年 3 月現在)で構成され、経済学研究科からは 14 名の教員が参加した。

本プログラムは 2003-2007 年度に本研究科と経済研究所が共同で実施した 2 つの 21 世紀 COE プログラム「現代経済システムの規範的評価と社会的選択」と「社会科学の統計分析拠点構築(Hi-Stat)」を継承し、以下の特筆すべき活動を行った。第一に、全国の研究者を対象とした政府統計マイクロデータの利用支援と独自集計を、総務省統計局との共同事業として行った。第二に、新たなデータベースを構築し公開した。第三に、実証研究の基礎となる新理論の構築を目指して大規模な国際会議を多数開催した。第四に、マイクロ統計データを用いた実証分析を他大学の研究者・研究組織と連携して積極的に進めた。第五に、データと直結した統計分析手法の開発のため、統計理論の充実を図った。

本プログラムでは、公募研究やデータ・アーカイブを活用して、国際的な研究のネットワークを構築・拡充した。また、国際的に開かれた教育研究拠点として、国内外から公募で多数の大学院生や若手研究者を COE 研究生として受け入れ、COE 研究員として雇用した。さらに、大学院生や若手研究者を対象とするリサーチワークショップやセミナー・レクチャーシリーズを多数開催し、他のさまざまな研究支援と併せて、大学院生等の研究の質を高めた。このような成果に基づいて、本プログラムは、グローバル COE の事後評価において、4 段階中最高の総括評価を受けた。本プログラムの内容と成果について、より詳しくは、以下の URL を参照されたい。

<http://gcoe.ier.hit-u.ac.jp/index.html>